

1. 懇談会の設立

- ・開催趣旨に賛同いただき、篠原委員が座長に選任された。

2. 意見概要

(1) 民間活力による運営

- ・年間通して、民間に管理を委託する仕組みがよい。
- ・民間のノウハウの活用やコラボレーションにより魅力を増やせる。
- ・有料化することも考えて行くべきである。
- ・外郭放水路には、有料にしても運営できる魅力がある。

(2) 施設の充実

- ・ドローンフェスティバルを開催するなど、施設の意義から考えた使い方だけではなく、伝えたい場としてアプローチする活用方法を考えていくことも必要である。
- ・第2立坑から第5立坑を巡るツアーや、ダム観光放流のように広報のための施設稼働など、施設稼働状況を見える化できるような活用方法も考えられる。
- ・ロケツーリズムを採用するなど、集客につながる核となるものを作っていくことで、日常的な見学者増加につなげることも考えられる。
- ・インバウンドの増加に対応するためには、1年に一度、飛べるロボットイベントなどを引き付けるイベントを開催し、SNS、動画やテレビ放送を活用して広報し、これらを見た人が一度は行ってみたいと思えるような仕組みをつくることが考えられる。
- ・外国人を呼び込むためには、施設の案内等の完全英語化、英語版の Facebook での広報などが必要である。

(3) 春日部市、市民団体との連携

- ・春日部市は市民と連携し様々なイベント等に取り組んでいる。市民と外郭放水路・春日部市が協働することで、外郭放水路の利活用が進むことを期待している。春日部駅からイオンを通るバス路線が予定されており、外郭放水路へのアクセスは向上する予定である。
- ・日本の駅は外国人にとって分かりにくいいため、施設に来てもらうためには、船や自転車などでもよいが、分かりやすい動線にする必要がある。春日部を一日観光できるツアーとして案内するとよい。

- ・ 調圧水層の柱にアートペインティングをすることも考えられる。また、これをドローンや 360 度の VR で収録して、撮影して見せる方法もある。
- ・ 音が反響する場の特性を活かしてサラウンドのオーケストラや、音が混ざり合うことで相乗効果を生み出す音楽祭（爆音楽祭）なども考えられる。ミスマッチが話題になることもあり、いい物同士が混ざり合って生み出されるアイデアもある。

(4) 周辺の観光資源との連携

- ・ 今後、外国人観光客が増えることで、春日部市へ恩恵ができる仕組みを考えていくことも重要で、東武鉄道では、日光への外国人観光客に栃木市内の駅に途中下車してもらい、周辺の観光を盛り上げていく取り組みをしている。春日部市の魅力を作っていくうえでは、外郭放水路が大きな柱となり、ひな人形が有名な岩槻区と連携した取り組みも良い。
- ・ 春日部駅から他の地域や外郭放水路へ、観光資源を繋いでいく方法も考えて行く必要がある。
- ・ 春日部市の良さを同時に発信すれば良い。年中楽しめる春日部、外郭放水路は年中楽しめる技術革新の場所ですというようなアピールが良い。

3. 今後の予定

- ・ 民間開放を踏まえた利活用の方針として、本日の意見を提言書としてまとめる。

以上